

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センターすきっぷ 美和台教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 3日		～ 令和 8年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49家族	(回答者数) 45家族
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 20日		～ 令和 8年 3月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別・小集団・集団と児童の特性によって活動形態を検討し、支援にあたっていること。小集団では様々な職員が担当し、様々な視点(所有している資格)をもって実施することが出来ること。	小集団では様々な職員が担当し、様々な視点(所有している資格)をもって実施するようにしている。	支援の振り返り充実、記録の質を高めることが出来るように職員間での研修機会の確保。
2	保護者様との共通認識の下、支援を進めることが出来ていること。	その日の様子は送迎時に保護者様とお話させていただいている。また、面談時の密な情報共有にて職員と保護者様、共通認識を持つことによってお子様の支援がよりスムーズにいくように心がけている。	継続して保護者様の不安や困り感に対しての傾聴、共感する姿勢を意識する。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング等といった保護者への教育機会が少ないこと。	ペアレントトレーニングにおける知識やスキルを持っている職員が少ない、不足している。	ペアレントトレーニングについての知識を職員が理解することで外部の研修会等に参加をする。また保護者向けの研修会等の広報、企画。
2	児童は通所を楽しみにしているか(満足度的視点)。	支援の軸として、集団行動を目的に運動・学習を行っていることもあり時には、放課後はお子様によっては疲れを感じている様子が見受けらる。	その日の調子に合わせてお子様と相談しながら活動への参加の有無を決めていく。また、お子様のやってみたい、出来るようになりたい等の聞き取りを丁寧に行い日々のプログラムの見直しを行っていく。
3	地域との連携。	他事業所等の連携を取ることは出来ているが、お子様の地域にどのような資源があり、どのように活用できるかを知る機会が少ない。	児童発達支援管理責任者を中心にお子様の地域にどのような資源があり、どのように活用できるかを知る機会を作る。積極的に地域に出ていく(自立支援協議会等の定期的な参加)